

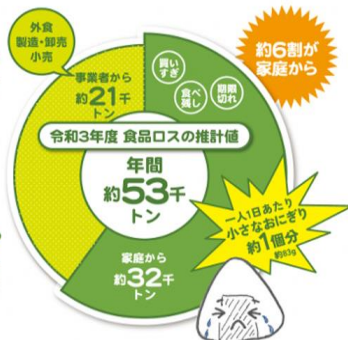
## フードバンクは必要なものなのか？

世の中には様々な理由で捨てられてしまう食品がある一方で、食に困っている人がいます。この「食品ロス」の環境問題と、食に困る方の「食のセーフティネット」の福祉問題をつなぐのがフードバンク活動です。フードバンクとは、まだ食べることができるのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を、食べることに困っている生活困窮者の支援団体や社会福祉団体に配る活動です。

## 食べられるのに捨てられる食品はどのくらいか知っていますか？

### 熊本県の食品ロスの量はどのくらい？

令和3年度の熊本県の食品ロス発生量は、年間約53千トンと推計されています。これを県民一人あたりに換算すると、年間約30kg、一人1日あたり約83g（小さなおにぎり約1個分）の食品ロスが発生しています。



### 食品ロスはどこから発生しているの？

熊本県の食品ロスは、家庭から32千トン、事業者から21千トン排出されており、食品ロスの約6割は家庭から発生しています。

県民一人あたりで換算すると、毎日小さめのおにぎり1個分（83g）の食料が捨てられて続けています。

参考：熊本県HP食品ロス削減の推進について

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/55/130404.html>

## 食に困っている「生活困窮支援」について、皆さんには関係ないことと思いませんか？ あなたの隣にも困っている人がいます。

食に困るほど困窮している人は、実は皆さんのすぐそばにもいます。困窮するに至ったきっかけは些細なことの連続で、それはどんな人にも起こりうるかもしれない不幸な出来事なのです。困窮状態にあっても「助けて」と声を上げにくいのが今の日本です。核家族化や、地域とのつながりが薄れていること、「支援を受けることは恥ずかしい」と、支援をためらう国民性が支援を遅らせています。どの支援団体の方も、もう少し早く相談に来てくれれば…と思うことがあると言います。

# 助けて！

派遣切りで収入がなくなり、困窮。

骨折により収入減、物価高騰の影響で自営業も減収となり困窮。

## 困窮に至るきっかけ

ある社会福祉協議会への相談一例

認知症のため仕事ができなくなり、収入減による困窮。

障害をもって引きこもりになった。強制退去により困窮。

家族に妊娠を共有しないままの出産。受け入れ準備が整っておらず困窮

高齢で独り暮らし。年金が少なく、医療費が払えない。

## フードバンクを通じて救われる命があります。

生活を立て直すためにも、まずは生きるために、「食べること」が必要です。フードバンクは食に困る方々を支援する「食のセーフティネット」として、支援団体を通じて食品を無償配布します。フードバンクで配布した食料で、命をつないで、自立に向かう方がたくさんいます。

皆が支え合い共に生きていく社会づくりのために、  
どんな境遇であっても食に困らない社会を作るために、  
**フードバンクは必要です。**

